

オレバンジ通信 Vol.24

ささき 佐々木まゆみ市議会活動レポート

2018年11月発行

発行元／仙台市議会公明党市議団 仙台市議会議員佐々木まゆみ
仙台市宮城野区幸町2-21-11 TEL022-707-7462 メールアドレス sasaki@sendai-komei.jp

全てに全力!! 求められる役割に体当たりで 取り組んでまいります。



児童・生徒の熱中症対策の緊急要望書を市長に提出

第三回定例会が10月5日に終了し、市立学校への熱中症対策が焦点となった定例会でありました。また、昨年度皆様からいただいた市税を市民のためにどのように使われたか審議する決算等審査特別委員会もあり、様々な角度から質疑させていただきました。

(一般質問ならびに特別委員会の質疑内容は中面に記載の通りです)

定例会中、委員会の改選があり私は、広報委員会の委員長、経済環境委員会の副委員長を新たに拝命しました。これまで務めていた防災・減災推進調査特別委員会の副委員長の任も引続き務めさせていただきます。これからの任期1年間、体当たりで取り組んでまいります。

公明党市議団として、今夏の記録的な猛暑の教訓を

生かし、学校における児童・生徒の熱中症対策に関する緊急要望書を市長に提出しました。

主な内容は

- ①PFI手法等を活用した普通教室へのエアコン設置。
 - ②学校施設への冷水機の設置。
 - ③熱中症暑さ指数計の学校への配置。
- の3項目です。

そのほかに、自転車の安全利用の条例化に伴う緊急要望書、市民のニーズに

合った安価な納骨堂の整備等を求める緊急要望書を、会派として提出しました。これは市民1,000人を対象に実施した調査結果を基にまとめた内容となっています。

今後とも、一人の声を大切に全力で取り組んでまいります。

仙台市議会議員 佐々木まゆみ

ささき 佐々木まゆみのプロフィール

昭和39年7月仙台市生まれ。
平成23年仙台市議会議員初当選(宮城野区選挙区)。
現在2期目。
【仙台市議会】
経済環境委員会副委員長。広報委員会委員長。
防災・減災推進調査特別委員会副委員長。



生活に密着した身近な問題に 焦点を当てる。

平成30年第3回定例会一般質問
平成30年9月13日

決算等審査特別委員会(都市整備局・建設局関連)
平成30年9月25日

ボランティア活動への支援について

【佐々木まゆみ議員】本市において高齢者ご自身の介護予防、住民相互の介護支援などの社会参加活動、にぎわいあふれる地域づくりのために(仮)「ボランティアポイント制度」を推進すべきと思うがどうか。

【健康福祉局長】無償ボランティア活動との整合性、受け入れ先の確保やポイント数の管理の手法など整理すべき課題も多いが、制度を導入している都市も増えてきているので、これらの課題についてどのように対応しているのか他都市の調査を進め、導入の可能性を検討してまいりたい。

ICT※を活用した介護支援、 セラピーロボットへの助成について

※ICT[Information and Communication Technology(インフォメーションアンドコミュニケーションテクノロジー)]の略語で日本では「情報通信技術」と訳されている。

【佐々木まゆみ議員】ICTなどを活用した健康・医療の新たな価値創造に向け、大学や医療機関、企業、自治体など様々な組織との協創の場を目的としてイノベーション研究開発拠点が平成31年3月に仙台に設立される。その取り組みの内容やICTを活用した民間との連携について所見を伺う。

【経済局長】本市では、仙台フィンランド健康福祉センタープロジェクトで培ったネットワークと経験を活かし、介護現場における実際の作業フローやICTで解決できる課題を洗い出し、ICTがどの部分に役立つかを見極めるとともに、詳細な現場ニーズの把握を行ってきた。これらに加え、今年度は開発された製品等の効果実証や介護現場への導入・定着への支援に取り組んでいる。

介護現場へのICT導入に当たっては、介護現場とICT企業がともに問題解決に当たることが必要なことから、両者の連携によるICTの利活用事例を増やし、介護現場の課題を解決していくとともに、地域経済の活性化に繋げていく。

【佐々木まゆみ議員】セラピーロボットを活用した認知症ケアや精神障害児者等などの治療に対する本市の見解を伺う。

【健康福祉局長】ロボット技術を活用したコミュニケーションの効果については、笑顔が増える、表情が豊かになるなど心理的な面で一定の効果が認められるという研究結果

もあるが、その効果については、国や他自治体においてモデル事業や実証実験が行われている段階であると認識をしている。助成等については現在、日常生活を直接支えるものや安全確保にとって必要なものを助成対象としている。さらに国などでの実証実験の成果や介護保険制度における位置付けの方向性等を注視していく。

人生手帳(エンディングノート)の導入について

【佐々木まゆみ議員】終活の一助となる「エンディングノート」を本市としても導入すべきと考えるがどうか。また、身寄りのない高齢者の方で、延命治療の意思、死亡届け出、葬儀、納骨等について希望を聞いた上で、市が事業者等と連携をとる「エンディングサポート事業」に取り組むべきと思うがどうか。

【健康福祉局長】本市では老人福祉センターにおいて開催した「終活セミナー」が好評いただいております。市民の皆様に関心が高まっていると感じている。エンディングノートや葬儀の生前契約等の終活支援については、既に民間事業者による取組みも数多くあることから、行政としてどのような関わり方がふさわしいのか、横須賀市をはじめ他都市の事例も参考にさせていただきながら、見極めてまいりたい。

SIDS(乳幼児突然死症候群)について

【佐々木まゆみ議員】SIDSは、何の予兆や既往歴もないまま乳幼児が死に至る原因のわからない病気だ。本市として、妊産婦への指導や新生児訪問時での対応、また保育所への対応、研修などの取り組みはどのようにしているか。

【子供未来局長】各区保健福祉センターにおいて、妊産婦や新生児訪問など個別の保健指導の場面で、「たのしねっと」の活用等により啓発を図り、乳幼児の事故予防に努めている。また、保育所へは、本市が策定した「保育所等における安全管理マニュアル」に、日々の保育で取り組むべき内容や注意点等を詳しく盛り込み、研修等の機会に繰り返し周知するとともに、各施設の巡回指導や実地監査の際に、現場の状況を確認し、適切な対応を求めている。

【佐々木まゆみ議員】保育所等でのベビーセンサー購入に対し補助金を出すべきと思うがどうか。

【子供未来局長】 保育所等における乳幼児突然死症候群、SIDSの予防は、窒息等の事故の起こりにくい睡眠環境を整えるとともに、睡眠中の子どもの顔色や呼吸の状態を十分に観察することが基本となるので、まずは全ての保育所等でそうした対応が徹底されることが肝要と考えている。ベビーセンサー等の事故防止製品は、こうした対応を補完しうるものだが、その導入に係る助成に関しては、現場のニーズや先行自治体における導入効果等を見極めてまいりたい。

平成30年9月25日

市営住宅の修繕・環境整備について

【佐々木まゆみ議員】 市営住宅の風呂整備について、設備交換を希望する全世帯を対象にすべきだ。

【市営住宅管理課長】 風呂設備交換を希望する方は現在約300戸分ある。今年度については100戸の設置を計画しており、今後についても入居者の居住性向上の推進のため、より多くの風呂設備の交換ができるよう努めていく。

【佐々木まゆみ議員】 外国人入居者への対応についてはどうか。

【市営住宅管理課長】 市営住宅の外国人入居者への対応については、日本とそれぞれの母国との生活習慣等が異なることから、市営住宅の生活における注意事項等を英語、韓国語及び中国語により記載したパンフレットを配布し、入居時に説明を行ってきた。外国人の入居後の騒音やごみの捨て方など、様々なトラブルについては、日本人入居者と同様の指導を行ってきたが、日本語の理解が難しい世帯に対しては、通訳をつけてわかりやすい指導を行うなど、今後とも適切な指導に努めていく。

アスベスト対策について

【佐々木まゆみ議員】 民間建築物に係るアスベスト除去等の補助事業は、国の交付金を活用しており平成32年度まで延期となっているが、その後の対応を本市独自でしていくのか。

【建築指導課長】 民間建築物吹付けアスベスト除去等補助事業の補助期間については、現在平成32年度末までとしており、まずは、補助対象となる建築物の把握に努め、補助制度を周知しながら、事業を進めて参りたいと考えている。平成18年度に国は制度を創設して以来、内容等に若干の変更はあったが、その期限を繰り返し延長してきた経緯もあることから、平成33年度以降についてはこうした経緯も踏まえ、国の動向等を注視しながら対応を検討して参りたい。

【佐々木まゆみ議員】 アスベストを吸ってから症状が発症す

るまでの潜伏期間は30年から40年と言われているため、丁寧な情報提供や健康被害救済制度の相談窓口の周知が大事である。含有調査の相談、依頼があった際に、しっかりと市民の方々に救済支援がある旨を周知することが大事と考えるがどうか。

【建築指導課長】 民間建築物のアスベスト対策を進めていくためには、分析調査や除去等への補助制度の活用を進めると共に、健康被害の救済を図るため、その制度の周知を図ることも重要であると認識している。現在、窓口において健康被害救済制度等の支援に係るパンフレット等を設置しご案内しているところだが、今後も関係部局と連携し、より丁寧な情報提供に努めていく。

『道路不具合通報システム』について

【佐々木まゆみ議員】 道路の穴ぼこや側溝の破損など道路の不具合を道路パトロールで把握するほか、電話等により市民の皆様から情報提供いただいているが、迅速な修繕につながるよう、新たにスマートフォン等のアプリを利用した通報システム『道路不具合通報システム』を平成29年10月から平成30年3月までを試行の期間としスタートした。決算年度での、通報件数・通報内容について伺う。併せて通報の時間帯はどうか。

【道路保全課長】 平成29年度の通報件数は、242件あった。内容としては、穴ぼこや段差など舗装に関することや、ガードレールや防護柵、側溝のふたの破損など道路の不具合に関する通報となっている。通報時間帯は、夜間や休日の閑庁時間帯が約6割だった。

【佐々木まゆみ議員】 『道路不具合通報システム』では、新規整備の要望は対象としていないが今後は是非とも対象とし、活用すべきと思うがどうか。

【道路保全課長】 このシステムは匿名性のある一個人からの通報が基本となっていることから、地域内の新規整備事項を受け付ける考えはない。なお、通報頂いた内容は、現地の安全対策の一つとして参考とさせて頂く。

【佐々木まゆみ議員】 システムの周知が更に必要と考えるがどうか。

【建設局次長兼道路部長】 道路不具合に関する、市民の皆様からの通報は、大変貴重なものと認識している。これまでも市政だよりやポスター掲示、チラシ配布などにより、PRを行ってきたが、今後も多くの皆様に利用して頂けるよう一層の周知に努める。

佐々木まゆみ日々の活動



秋祭り(10月6・7日)

鶴ヶ谷の元気まつりに来賓として参加。翌日は少林神社で開催の「ねこまつり」へ。猫のグッズやお饅頭、また譲渡会もあり多くの猫好きが集まってました。



宮城野シルバーフェスティバルに参加(8月22日)

区内、老人クラブ10組による踊りやレクリエーションダンスなど華麗なステージ発表がありました。



宮城野区スポ・レク祭に参加(10月8日)

体育の日は仙台市内のスポーツ施設が無料で利用でき、楽しく健康になれるスポーツイベントが数多く行われます。



宮城野消防団安全点検(9月2日)

地域の安心安全のため、常日頃からご尽力いただいております。



柊江学区の防災訓練に参加(9月8日)

町内会毎に分かれ、豪雨災害・土砂災害が発生した場合「避難準備」「避難勧告」「避難指示」時にどこに避難すべきか話し合いがもたれました。皆様からの活発な意見に、わが地域、我が家を守るとの結束力に感謝です。



東北方面隊58周年記念行事(9月23日)



運動会(9月23日)

みやぎ幼稚園の運動会に参加。快晴で、暑い中でしたが園児が元気に走る姿や演技に脱帽です。



2018世界バレー代表親善試合(9月26日)

仙台市は2020年の東京オリンピック・パラリンピックにおけるイタリアの「ホストタウン」として交流を進めており、その一環として2018世界バレー女子大会に出場するイタリア代表チームの事前キャンプを誘致しました。